



Overseas Fishery Cooperation Foundation of Japan

評価報告書

— 2024 年度 課題別研修事業 —
(終了時評価—2025 年 4 月)

漁船員養成（乗船）コース

研修生受入の概要

研修コース名	漁船員養成（乗船）コース
参加国及び参加人数	2 か国 6 名（ミクロネシア連邦 3 名、パプアニューギニア独立国 3 名）
研修コース実施の経緯と背景	<p>我が国カツオ・マグロ漁業の重要な漁場をその EEZ に有する太平洋島嶼国は、自国のカツオ・マグロ資源を最大限に活用した経済発展を目指しており、その方策の一環として自国水域に入漁する外国漁船や合弁漁船に自国民を乗船させ雇用拡大を図ろうとしている。</p> <p>本研修は、ミクロネシア連邦（以下「ミクロネシア」という。）及びパプアニューギニア独立国（以下「PNG」という。）との入漁協議において、両国から要望された自国乗組員の育成を行うもので、太平洋島嶼国からの研修生に対して「漁船乗組員としての資質の向上」及び「漁労活動に従事するための基礎能力の習得」に関する研修を実施することにより、当該国の沖合漁業の振興と雇用の創出に資するとともに、我が国との協力関係の維持・発展を図るために設定されたコースである。</p> <p>なお、研修を修了した太平洋島嶼国の研修生は、将来的には日本漁船に就業の場を求めることもあり、乗組員不足に直面する我が国遠洋漁業の支援となることも期待される。</p>
研修期間及び研修場所	1) 一般研修：2024 年 8 月 5 日～9 月 5 日（32 日間） （幕張国際研修センター、水産関連施設等） 2) 技術研修：2024 年 9 月 6 日～ （ミクロネシア 1 名）～2024 年 12 月 13 日 （ミクロネシア 1 名）～2024 年 12 月 24 日 （ミクロネシア 1 名）～2025 年 1 月 7 日 （PNG 1 名）～2025 年 1 月 8 日

	<p>(PNG 1 名) ～2025 年 2 月 11 日</p> <p>(PNG 1 名) ～2025 年 2 月 19 日</p> <p>(研修場所: (一社)海外まき網漁業協会会員の海外まき網漁船)</p> <p>※各漁船に 1 名が乗船し、2 航海の技術研修を行う。乗船期間終了次第それぞれ帰国する。研修生ごとに帰国日が異なる。</p>
上位目標	<p>関係途上国のまき網漁業の自立・発展、雇用の創出及び我が国との協力関係の維持・発展に貢献する。</p>
研修目標	<p>良質な部員クラスの漁船乗組員に必要な基礎知識を習得させることで雇用の増大に貢献する。</p>
成果	<p>研修生は海外まき網漁業及び甲板員に求められる基礎知識を習得する。研修生が習得した知識が自国まき網漁船、あるいは我が国の海外まき網漁船に就業した際に活用される。</p>
活動	<p>1) 学科講義</p> <p>日本語基礎会話、まき網漁業の基礎的技術（まき網漁船の特徴と操業概要、船内生活、船体主要部名称、係船設備と係留索の種類、魚群形成・漁獲方法、投網・揚網・作業手順、製品管理の基礎知識、漁獲物の冷凍・保冷・作業手順、乗船時の一般的注意事項、操業時の注意事項、緊急退船時の注意事項と救命筏の取り扱い、安全標識、乗船準備の注意事項、船員の心得、漁獲物の流通、カツオ・マグロ資源管理等）</p> <p>2) 見学</p> <p>水産関連施設等（漁港、水産卸売市場、水産加工施設、まき網漁船等）</p> <p>3) 実技訓練：</p> <p>漁具取扱い実技（結索技術及び漁網修理）、安全講習等</p>
投入	<p>財団側</p> <p>1) 一般研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 人的投入（延べ人数）：日本語講師 5 名、水産講師 1 名、研修監理員 3 名、漁船・漁具講師 4 名、安全講習指導員 1 名 物的投入：日本語テキスト、まき網漁業関連テキスト、まき網漁具実技関連資材（漁網、ロープ・ワイヤー等） <p>2) 技術研修</p> <ul style="list-style-type: none"> 人的投入（指導員等）：各実習船に 1 名以上 物的投入（研修資材等）：実習船に装備されている漁具、漁撈機器、航海計器類等 <p>受入対象国側</p> <p>投入なし。</p>

評価事項

◆ 妥当性

1. 研修実施計画は相手国のニーズに合致していたか

ミクロネシア及び PNG は、カツオ・マグロ漁業の開発振興を国の重要な政策としている。また、国内に就業の場が少ない若年層の雇用促進策の一環として、我が国の遠洋漁船への乗船も推し進めている。本研修は、まき網漁船を対象とした部員クラスの漁船乗組員の育成を目標としており、ミクロネシア政府及び PNG 政府の漁業振興政策及び若年者層雇用促進施策を人材育成の観点から支援するもので、相手国のニーズに合致していた。

2. 研修実施計画の妥当性（一般研修・技術研修）

一般研修及び技術研修内容は、まき網漁船の甲板部員に必要な知識及び漁撈技術を広角的に習得させるものであり、実施計画は妥当であった。

3. 研修実施計画は、一般研修期間及び技術研修期間中の研修生活の実態を考慮して作成されたか

一般研修では、日常生活及び技術研修に必要な基礎会話の習得を目的として日本語研修を実施するとともに、船上で必要な知識及び技術の習得のための学科講義及び実技訓練等を陸上で実施したうえで、技術研修として乗船実習を実施した。いずれも指導員又は研修監理員等を適切に配置するなど、研修生活の実態を考慮した計画を作成した。

4. その他

特になし。

◆ 効率性

1. 講師、研修施設、研修資機材等は計画通りに投入され、期待される成果を上げたか

一般研修は、日本語習得レベルに応じたクラスに分け、日本語講師を常時 2 名、漁労技術等の講義と実技には、分野別の講師 3 名を配置した。また、研修施設等は、各種研修等に使用されているものであり、教材等も予定している各学科講義あるいは実技に対応するものを準備した。

技術研修は、カツオ・マグロを対象とする海外まき網漁船の漁撈長や士官が指導員となり、実践的な指導を行った。

以上の人的及び物的投入は、計画どおり実施され、期待される成果を上げた。

2. 研修内容、水準、技術指導方法は適切に実施されていたか

研修日数、講義・実習の内容および水準、指導方法については、これまでの経験を踏まえ、適切に計画どおり実施された。

3. その他（研修の効率性に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

研修生1名が乗船研修中に負傷する事故が発生したことから、安全面に関する指導が十分でなかった可能性がある。今回の受傷事故を受け、今後は乗船研修に先立ち、船内での安全確保と事故防止の意識を高めることを目的に、安全管理に関する講義を実施する。講義では、安全管理の重要ポイントや安全標識の説明（現物提示を含む）、過去の労働災害および海難事故の事例紹介、ルールを遵守した操業の重要性について解説する。また、講義では、作業中に実際に発生したトラブルを題材としたケーススタディを通じて、実践的な学習も行うこととする。労働災害の事例としては、今回発生した受傷事故を取り上げ、甲板における安全作業の重要性について注意喚起を行う（当該事例の紹介にあたっては、受傷者本人の了承を得ている）。

◆ 有効性

1. 研修目標の達成度

研修目標：良質な部員クラスの漁船乗組員に必要な基礎知識が習得できる

一般研修及び技術研修を通じて、漁労技術や漁船の船内労働慣行等を習得し、まき網漁船の部員クラスの乗組員としての基礎知識と技術は十分に習得したと判断され、研修目標は達成された。

2. その他（研修生の研修意欲・研修満足度等及び職場における社会・文化、制度上の環境等外部要因が、研修目標の達成に与えた影響等）

特になし。

◆ インパクト

1. 上位目標の達成に対する研修目標の達成の効果は、どの程度見込まれるか

良質な部員クラスの漁船乗組員に必要な基礎知識を習得した人材が沖合・遠洋漁船に派遣されることは、関係途上国のまき網漁業の自立・発展、雇用の創出及び当該国と我が国との協力関係の維持・発展に着実に貢献する。

2. 分野別研修事業は、政策形成、社会・経済等でどのような直接的・間接的な効果又は負の影響が見込まれるか

ミクロネシア及びPNGの両国は自国のカツオ・マグロ資源を最大限に活用した経済発展を目指しており、その方策の一環として自国水域に入漁する外国漁船や合弁漁船に自国民を乗船させ雇用の創出を図ろうとしている。本研修を通じてまき網漁船員が育成されることは、

合弁船をはじめとする同国まき網漁船、あるいは我が国の海外まき網漁船への雇用機会が増えること、及び、同国の水産振興に必要な人材の育成・確保に貢献すると期待される。

3. その他（計画当初予見できなかった効果又は負の影響が見込まれるか等）

特になし。

◆ 持続性

1. 研修生は帰国後、研修の成果を有効に活用している（できる見込み）か

研修生は、将来的に自国あるいは我が国の海外まき網漁船に乗り込む予定であり、習得された漁撈技術等は有効に活用される見込みである。

2. その他（相手国及び研修生の自立発展に影響を与えたと考えられる貢献・阻害要因等）

特になし。

以上